

令和7年度 事業報告書

学校法人 二階堂学園

目 次

1. 法人の概要	1～2
設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数	
令和7年度 応募・合格・入学者数	
役員・評議員・教職員	
管理運営の概要	
2. 事業の概要	3～5
主な教育・研究の概要	
事業報告の概要	
(各設置校・園の事業報告詳細は、別紙「附属明細書」参照)	
3. 財務の概要	5～12
決算の概要	
貸借対照表関係	
事業活動収支計算書関係	
資金収支計算書関係	
その他	
資産運用の状況	
補助金の状況	
経営の状況分析、経営の状況成果と課題、今後の方針・対応方策	
4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の 整備及び運用状況の概要.....	12～14
関係する決議の概要	
体制整備及び運用状況の概要	

1.法人の概要

(1)設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開設 年度	入学定員	収容定員	R7.5.1 現員
日本女子体育大学 〒157-8565 東京都世田谷区北鳥山 8-19-1 学長 深代 千之	大学院 スポーツ科学研究科修士課程	年度 H5	人 15	人 30	人 34
	体育学部	S40			
	運動科学科 (R2 募集停止)	H11	-	-	1
	スポーツ健康学科 (R2 募集停止)	H11	-	-	1
	スポーツ科学科	R2	220	880	700
	ダンス学科	R2	100	400	391
	健康スポーツ学科	R2	180	720	620
	子ども運動学科	R2	40	160	129
	計		555	2,190	1,876
日本女子体育大学附属二階堂高等学校 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 校長 石崎 朔子	全日制課程普通科	S23	200※	600	265
我孫子二階堂高等学校 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 校長 中島 太	全日制課程普通科	S42	260※	780	544
日本女子体育大学附属みどり幼稚園 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 園長 大平 春美		S22	88	280	263
二階堂幼稚園 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 園長 志田 一美		S51	90	270	191
日本女子体育大学附属保育園 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-20-16 園長 牟田 郁子		R2		93	88

※日本女子体育大学附属二階堂高等学校と我孫子二階堂高等学校の入学定員は、学則上の人数。

(2)令和7年度 応募・合格・入学者数

学 校 名	学部・学科等	入学定員	応募者数	合格者数	入学者数	備 考
日本女子体育大学	スポーツ科学研究科	15	18	17	17	※健康スポーツ学科 2 年次編入学 1 名含む
	大学院小計	15	18	17	17	
	スポーツ科学科	220	211	203	157	
	ダンス学科	100	122	110	103	
	健康スポーツ学科※	180	197	188	151	
	子ども運動学科	40	35	35	29	
	学部小計※	540	565	536	440	
	大学合計※	555	583	553	457	
日本女子体育大学附属 二階堂高等学校		160	190	184	115	
我孫子二階堂高等学校		200	1,467	1,419	250	

日本女子体育大学附属 みどり幼稚園		88+若F名	102		99	
二階堂幼稚園		90+若F名	46		43	
日本女子体育大学附属 保育園					26	

(3) 役員・評議員・教職員 (R7.5.1 現在)

【役 員】

理 事	理事長	石崎 朔子		
	常務理事	大西 史記	深代 千之	石塚 浩
	理 事	中島 太	溝口 紀子	山下 敬緯子
		浅田 眞弓	宮嶋 泰子	桑島 俊彦
監 事		伊勢呂 裕史	岡本 由美子	

【評議員】

溝口 紀子	小海 隆樹	羽生田 真一	大平 春美
小池 匠	志田 一美	牟田 郁子	柳澤 康彦
嶋住 英夫	山下 敬緯子	高橋 嘉子	
高橋 真喜	高荷 敏之	鈴木 貴美子	山本 果子
大竹 恵美	市川 真知子	上治 丈太郎	工藤 公彦
穴戸 良子	鯛谷 和代	中島 太	福岡 孝純

<令和7年度役員賠償責任保険契約の状況>

- (1) 団体契約者 日本私立大学協会
- (2) 被保険者 記名法人…学校法人 二階堂学園
個人被保険者…理事、監事、評議員

(3) 補償内容

- ① 役員(個人被保険者)に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等
- ② 記名法人に関する補償 法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
- (4) 支払い対象とならない主な場合 法律違反に起因する対象事由等
- (5) 保険期間中総支払限度額 5億円

【教職員(専任)】

大学教員	82名
高等学校教員	53名
幼稚園教員	27名
保育園保育士	13名
職員	70名

(4) 管理運営の概要(理事会等の開催状況)

会議名	令和7年度開催
理事会	7回
評議員会	6回
常任(常務)理事会	17回
学園連絡会議	11回(うち書面開催3回)

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

教育目標

日本女子体育大学

体育に関する高度の科学研究教授を行い、有能な女子体育指導者等を養成するとともに教養高き社会人を養成し、体育の普及発展に寄与することを目的とする。

附属二階堂高等学校

多様な人びとと協働することができる主体性を身につける。

自分の考えを、自分の言葉で、わかりやすく伝える力を身につける。

自ら考え抜いて行動し、新たな価値を生み出す力を身につける。

我孫子二階堂高等学校

他を尊重し、心のつながりを大切にする教育。

自分に自信が持てる人間を育てる教育。

自立と自律の心を養う教育。

一人一人を大切にし、個人の能力を引き出す教育。

附属みどり幼稚園

遊びを通して自ら学び、感性ゆたかな心と丈夫な身体の発達を助長し、生きる力を育むこと。

明るく元気な子ども。

思いやりのある子ども。

発想の豊かな子ども。

二階堂幼稚園

『元気な身体作り』と『豊かな心』を育てる保育。

心身共に健康で明るくたくましい子。

自分で考え行動し、節度ある生活の出来る子。

自然に親しみ、様々な事象を発見出来る子。

思いやりと感謝の心を持つ子。

美しいものに感動する心を持てる子。

附属保育園

健康な身体と豊かな心を育てる

思いやりをもって、支え合い、自立心を育てる

好奇心や探求心を持って、自ら学ぶ力を育てる

自分の思いや考えを、言葉で表現する力を育てる

体験を通して、表現力や想像力を育てる

(2) 事業報告の概要

改正私立学校法に基づき変更された寄附行為が令和 7 年 4 月 1 日に施行され、新たに設置された各選任機関により選任された役員・評議員等により新体制が始動した。

施設関連では、東京都都市計画道路用地に所在する既存建物等の解体工事を無事に終え、東京都への土地の引き渡しも年度内に行った。学園創立百周年での施設設備整備事業寄付金を活用し、附属高校では校庭人工芝の改修、

我孫子高校ではスクールバスの購入、みどり幼稚園・二階堂幼稚園・保育園では園庭遊具の新規設置や改修工事を実施した。

日本女子体育大学では開学 60 周年、二階堂幼稚園では開園 50 周年の節目の年となり、それぞれが趣向を凝らした記念事業・記念式典を実施した。

以下は、各設置校・園の事業報告の概要である(各校・園の事業報告詳細は、別紙「附属明細書」参照)。

<日本女子体育大学>

開学 60 周年にあたり、大学の教育力・研究力の資産を活用した挑戦的な未来ビジョンの提案募集等、大学の活性化に繋がるような記念事業を実施した。教育面では、教員の採用人事等を計画的に行うとともに、大学院では新たな演習科目を配置するなど改革を推進した。研究活動では、科学研究費の採択件数が、全教員に獲得を奨励して増加した前年度と同程度となった。また、研究活動を奨励するため、令和 8 年度より学部の定額研究費を科研費申請の有無や保有状況に基づいて傾斜配分することとした。学生募集は、指定校の追加や試験内容の変更等の入学試験の改善、教員による高校訪問や来校型イベントの充実など、様々な取り組みを行った結果、全学科で入学定員を充足することができた。その他、地域交流講座での新たな試みや、寄付金募集のためのホームページ開設などを行った。

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

教育目標の具現化のために、目標を教職員間で共有し、自ら学び考え主体的に行動ができる生徒の育成をめざして、授業方法や評価のあり方を工夫した。最重要課題である生徒募集においては、DX を活用した広報活動を充実させて選ばれる学校づくりに取り組んでいった。特にSNSや動画等を積極的に活用して強みや魅力をアピールすることで説明会等への集客につなげていった。進路指導においては、日本女子体育大学への進学実績を上げるために、各種ワークショップや授業体験等を通じて、大学の魅力を伝えることで、希望者増につなげた。また、地域連携においては、地元商店街や自治会と連携して、様々な活動を行っていった。

<我孫子二階堂高等学校>

ICT 活用の定着により授業改善および教職員の業務効率化が進み教育の質的向上や進路状況にも一定の成果が見られた。また令和 7 年度スタート時点の生徒数合計が 545 人で定員充足率が昨年の 73%から、90%へ上昇し、生徒募集・広報活動の成果が数字になり現れている。今年度の体験入学や説明会参加者数が前年度を上回り、今年度並みの入学生を確保することができ、経営効率改善に向けた施策は概ね計画どおり進捗しており、経営基盤が確立しつつある。一方、施設の収益的活用や人員配置には未達項目が残っており、次年度に向けた経営資源配分の最適化が課題である。

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

園児が自ら学び感性豊かに主体性をもって生活できるよう、様々な体験や経験を積む保育を行い、子ども達はのびのびと自分の思いを発想豊かに伝え元気に過ごした。食育活動では野菜を育てる大変さを感じ、他学年は年長児の育てる野菜の生長に興味関心を持った。年中行事では行事食を皆で食すことにより感性が豊かに広がった。預かり保育では、利用者の増員により教員が不足する中での保育となったため、保護者が安心できる教員数を確保したい。園内環境では、フェンスや門の修理等を行い安全な環境となった。園児募集は、昨年同様に見学会や試食会、説明会を実施し、広く園外に周知でき、プレ保育(みどりクラブ)も行い園児確保に繋がった。今年度は大学施設を利用する機会がなかったので来年度は附属園としての強みをアピールしたい。今後も時代にあった保育を行い、魅力ある園となるよう心がけて歩いていきたい。

<二階堂幼稚園>

子どもが自ら考え想像し主体的に行動する力を育てていく保育を実践し、子ども達に運動することの楽しさが伝わるよう、体幹力を高める縄跳びやボール遊び等の運動遊びを積極的に取り入れた。また、水泳指導を強化し、幼児期に必要な身体づくりに取り組んだ。安全面では、様々な災害から身を守る意識を高める指導を行った。また経年劣化した遊具の改修を行ったことで、園児や未就園児に安全で綺麗になった遊具を提供することができ、保護者から高評価を得ることができた。募集では、満3歳児の受け入れだけではなく、未就園児教室にも力を入れ、より早期の園児獲得に繋げていった。今後も来園しやすく体験したい未就園児教室、見学会を目指し園児獲得に努める。

<日本女子体育大学附属保育園>

園児一人ひとりの最善の利益と主体的な遊びを第一に考え、日本女子体育大学子ども運動学科や基礎体力研究所との連携を深め、専門的知見を活かし運動能力や体力の向上へと繋げた。園庭開放やホームページ、SNSを活用した情報発信で地域との交流を図ることができた。引き続き「とうきょう すくわく プログラム」に参加し、テーマを身近な『自然』に変更したことで、さらに園児の興味を尊重した活動ができた。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

当該会計年度末(3月31日現在)時点の資産や負債などの状況を示し、財政の状態を表す役割を担っています。企業会計の貸借対照表と役割は同じですが、表示内容は固定資産の「図書」や、企業会計の資本金に該当するものとして「基本金」を計上するなど、学校法人会計独特の科目が表記されます。貸方の「基本金の部」と「繰越収支差額の部」を合わせて「純資産の部」となります。

令和7年度末の資産、負債及び純資産の額は以下のとおりである。

《資産の部》

資産総額は314億7,764万円、前年比6億9,534万円の減少(△2.2%)です。

固定資産

固定資産総額は280億7,580万円、前年比10億573万円の減少(△3.5%)です。主な要因は、東京都都市計画道路事業施行に伴う支障建物等の取り壊しによる減少。

流動資産

流動資産総額は34億184万円、前年比3億1,039万円の増加(9.1%)です。主な要因は、東京都都市計画道路事業施行に伴う補償料等が未収入金となったことによる増加。

《負債の部》

負債総額は41億3,149万円、前年比6億1,516万円の減少(△14.9%)です。

固定負債

固定負債は25億9,476万円、前年比1億4,456万円の減少(△5.6%)です。主な要因は、借入金のうち次年度に返済する金額を流動負債へと振り替えたことによる減少。

流動負債

流動負債は15億3,672万円、前年比4億7,060万円の減少(△30.6%)です。主な要因は、前年度前受金に東京都都市計画道路事業施行に伴う補償料等が計上していたことにより減少。

《純資産の部》

純資産は 273 億 4,616 万円、前年比 8,018 万円の減少(△0.3%)です。

基本金

基本金総額は 321 億 6,774 万円、前年比 8 億 7,316 万円の減少(△2.7%)です。主な要因は、都市計画道路事業における支障建物等の取り壊しにより、第 1 号基本金の減少によるものです。

(単位 円)

	令和 3 年度決算 令和 4 年 3 月 31 日	令和 4 年度決算 令和 5 年 3 月 31 日	令和 5 年度決算 令和 6 年 3 月 31 日	令和 6 年度決算 令和 7 年 3 月 31 日	令和 7 年度決算 令和 8 年 3 月 31 日
固定資産	25,496,064,711	25,642,207,687	27,637,428,526	29,081,541,681	28,075,807,949
流動資産	3,278,722,770	5,459,787,628	2,626,633,920	3,091,444,693	3,401,835,112
資産の部合計	28,774,787,481	31,101,995,315	30,264,062,446	32,172,986,374	31,477,643,061
固定負債	1,007,987,057	3,235,803,839	2,986,538,497	2,739,321,053	2,594,764,289
流動負債	1,379,339,971	1,457,633,099	1,381,784,904	2,007,324,541	1,536,721,720
負債の部合計	2,387,327,028	4,693,436,938	4,368,323,401	4,746,645,594	4,131,486,009
基本金	31,338,590,697	31,416,618,472	32,959,804,744	33,040,892,218	32,167,737,188
繰越収支差額	△ 4,951,130,244	△ 5,008,060,095	△ 7,064,065,699	△ 5,614,551,438	△ 4,821,580,136
純資産の部合計	26,387,460,453	26,408,558,377	25,895,739,045	27,426,340,780	27,346,157,052
負債及び純資産の部合計	28,774,787,481	31,101,995,315	30,264,062,446	32,172,986,374	31,477,643,061

イ)財務比率の経年比較

(単位 %)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
運用資産余裕比率※1	244.3	198.4	127.0	182.2	154.0
流動比率※2	237.7	374.6	190.1	154.0	221.4
総負債比率※3	8.3	15.1	14.4	14.8	13.1
前受金保有率※4	246.6	509.0	248.9	165.9	244.8
基本金比率※5	99.9	96.9	93.6	94.3	94.7
積立率※6	76.4	83.7	59.8	74.8	72.5

※1 (運用資産-外部負債)÷経常支出×100

※2 流動資産÷流動負債×100

※3 総負債÷総資産×100

※4 現金預金÷前受金×100

※5 基本金÷基本金要組入額×100

※6 (現金預金+特定資産+有価証券)÷(減価償却累計額+退職給与引当金+2 号基本金+3 号基本金)×100

②事業活動収支計算書関係

ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

当該会計年度の①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、及び③①と②以外の臨時的な活動に対応する事業

活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、基本金組入前の当年度収支差額と基本金組入後の当年度収支差額を表示させることで、学校法人全体の経営状況を把握する役割を担っています。そして、収益と費用を対比し学校法人の事業活動収支のバランスを見ます。企業会計の損益計算書と類似の書類となりますが、学校法人は利益の獲得を目指すのではなく、収支の均衡を目的とします。

① 教育活動収支

教育活動収支は、本業の教育活動の収支状況を表しています。教育活動収支差額は、9 億 330 万円の支出超過となりました。

- 1 教育活動収入計は 47 億 5,810 万円でした。昨年度よりも 4 億 1,562 万円増加となりました。我孫子高校生生徒数増加による「学生生徒等納付金」の増加、経常費補助金のうち大学授業料等減免費交付金及び保育園運営費助成金の増加が主な要因です。
- 2 教育活動支出計は 56 億 6,140 万円でした。昨年度よりも 6 億 7833 万円増加となりました。学校法人会計基準が変更され、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い賞与引当金の繰り入れを行ったこと、令和 7 年度から修学支援制度の拡充で「多子世帯」も減免対象となったことによる大学奨学金の増加が主な要因です。

② 教育活動外収支

教育活動外収支は、経常的な収支のうち財務活動による収支状況を表しています。教育活動外収支差額は、1 億 5,384 万円の収入超過となりました。

- 1 教育活動外収入計は 1 億 6,321 万円でした。昨年度よりも 3,402 万円増加となりました。変動金利の利率が上がったこと、早期償還となった債券の買い替えでより高い利率の債券に切り替えられたことが主な要因です。
- 2 教育活動外支出計は、937 万円でした。昨年度よりも 125 万円減少となりました。

教育収支差額と教育外収支差額を合わせた経常収支差額は、7 億 4,946 万円の支出超過となりました。昨年度よりも 2 億 2,743 万円支出超過が増加となりました。

③ 特別収支

特別収支は、資産の売却や処分等の臨時的な収支を表しています。特別収支差額は、6 億 6,927 万円の収入超過となりました。

- 1 特別収入計は 8 億 8,194 万円でした。昨年度よりも 11 億 8,954 万円の減少となりました。東京都都市計画道路事業施行で昨年度及び今年度において資産の売却による補償がありましたが、契約の関係で昨年度の割合が大きかったことが主な要因です。
- 2 特別支出計は 2 億 1,266 万円でした。昨年度よりも 1 億 9,380 万円増加しました。学校法人会計基準が変更され、引当金の計上基準が明確化されたことに伴い、当年度期首時点で発生している引当金を特別に組み入れたことが主な要因です。

経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、8,018 万円の支出超過となりました。昨年度よりも 16 億 1,078 万円減少となりました。

④ 基本金組入額合計

今年度の基本金組入額合計は 2 億 9,113 万円でした。昨年度よりも 6,449 万円減少となりました。

⑤ 当年度収支差額

当年度収支差額は 3 億 7,131 万円の支出超過となりました。昨年度よりも 15 億 4,629 万円減少となりました。

(単位 円)

科目		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,124,764,000	3,060,542,900	2,977,068,900	2,872,098,600	2,906,199,800
	手数料	57,362,120	49,484,040	49,663,340	60,559,560	66,704,570
	寄付金	11,112,880	20,597,727	32,080,149	15,689,195	9,748,652
	経常費等補助金	1,034,063,374	1,047,571,697	986,502,111	1,073,145,648	1,352,252,444
	付随事業収入	194,713,111	199,874,422	205,712,376	211,329,501	218,072,535
	雑収入	96,821,954	251,030,674	125,821,701	109,656,783	205,124,388
	教育活動収入計	4,518,837,439	4,629,101,460	4,376,848,577	4,342,479,287	4,758,102,389
	事業活動支出の部					
	人件費	2,492,731,955	2,620,811,270	2,374,669,829	2,323,136,412	2,482,704,001
	教育研究経費	1,446,485,155	1,564,297,607	2,002,960,047	2,044,940,441	2,468,093,298
	管理経費	584,613,700	604,384,052	614,953,975	606,489,227	706,571,473
	徴収不能額等	5,683,700	1,856,248	13,558,992	8,510,673	4,039,550
	教育活動支出計	4,529,514,510	4,791,349,177	5,006,142,843	4,983,076,753	5,661,408,322
	教育活動収支差額	△10,677,071	△162,247,717	△629,294,266	△640,597,466	△903,305,933
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	103,720,078	114,694,854	99,350,549	129,192,431	163,217,636
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	103,720,078	114,153,759	99,350,549	129,192,431	163,217,636
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	541,095	11,559,930	10,625,000	9,375,000
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	541,095	11,559,930	10,625,000	9,375,000
	教育活動外収支差額	103,720,078	114,153,759	87,790,619	118,567,431	153,842,636
経常収支差額		93,043,007	△48,093,958	△541,503,647	△522,030,035	△749,463,297
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	283,556	288,000	978,401	1,970,110,311	850,406,736
	その他の特別収入	26,765,824	74,286,737	33,639,918	101,379,509	31,536,966
	特別収入計	27,049,380	74,574,737	34,618,319	2,071,489,820	881,943,702
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,895,240	5,251,055	5,934,004	18,858,050	36,578,252
	その他の特別支出	129,269,777	131,800	0	0	176,085,881
	特別支出計	132,165,017	5,382,855	5,934,004	18,858,050	212,664,133
	特別収支差額	△105,115,637	69,191,882	28,684,315	2,052,631,770	669,279,569
基本金組入前当年度収支差額		△12,072,630	21,097,924	△512,819,332	1,530,601,735	△80,183,728

基本金組入額	△269,642,643	△78,334,851	△1,549,305,721	△355,624,301	△291,130,921
当年度収支差額	△281,715,273	△57,236,927	△2,062,125,053	1,174,977,434	△371,314,649
前年度収支差額	△4,794,123,450	△4,951,130,244	△5,008,060,095	△7,064,065,699	△5,614,551,438
基本金取崩額	124,708,479	307,076	6,119,449	274,536,827	1,164,285,951
翌年度繰越収支差額	△4,951,130,244	△5,008,060,095	△7,064,065,699	△5,614,551,438	△4,821,580,136

(参考)

事業活動収入計	4,649,606,897	4,818,371,051	4,510,817,445	6,543,161,538	5,803,263,727
事業活動支出計	4,661,679,527	4,797,273,127	5,023,636,777	5,012,559,803	5,883,447,455

イ)財務比率の経年比較

(単位 %)

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費比率※1	53.9	55.3	53.1	52.0	50.4
教育研究経費比率※2	31.3	32.9	44.7	45.7	50.2
管理経費比率※3	12.6	12.8	13.7	13.6	14.4
事業活動収支差額比率※4	-0.3	0.4	-11.4	23.4	-1.4
学生生徒等納付金比率※5	67.6	64.5	66.5	64.2	59.1
経常収支差額比率※6	2.0	-1.0	-12.1	-11.7	-15.2

※1 人件費÷(教育活動収入計+教育活動外収入計)×100

※2 教育研究経費÷(教育活動収入計+教育活動外収入計)×100

※3 管理経費÷(教育活動収入計+教育活動外収入計)×100

※4 基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入×100

※5 学生生徒等納付金÷(教育活動収入計+教育活動外収入計)×100

※6 経常収支差額÷(教育活動収入計+教育活動外収入計)×100

③資金収支計算書関係

ア)資金収支計算書の状況と経年比較

当該会計年度の諸活動に対応する全収入および支出の内容、ならびに当該会計年度における支払資金(いつでも引き出すことができる預貯金等)の収入および支出の顛末を明らかにしたものです。

1 収入の部

我孫子高校生徒数増加による「学生生徒等納付金」の増加、大学及び我孫子高校の受験生数増加による「手数料収入」の増加、大学の修学支援制度の拡充による授業料減免等交付金増加等による「補助金収入」の増加、早期償還による有価証券の売却の増加による「資産売却収入」の増加はあったが、東京都都市計画道路事業施行に伴う資産売却(補償料)について、前期末前受金及び未収入金として計上されたことによる調整額が 12 億 4,319 万円増加したことで、「収入の部計」は、昨年度よりも 4 億 7,644 万円減少となりました。

2 支出の部

退職者数の増加、修学支援制度の拡充による奨学金の増加、東京都都市計画道路事業施行に伴う支障建物等解体工事費の増加はあったが、新規ファイナンスリース取引が発生したため未払金が増加してことで、調整して減じる金額が増加したことで、次年度繰越支払資金は昨年度よりも 2 億 8,152 万円減少し、22 億 8,506 万円になりました。

(単位 円)

収入の部	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
学生生徒等納付金収入	3,124,764,000	3,060,542,900	2,977,068,900	2,872,098,600	2,906,199,800
手数料収入	57,362,120	49,484,040	49,663,340	60,559,560	66,704,570
寄付金収入	29,154,243	39,032,687	43,908,748	14,659,880	15,924,240
補助金収入	1,036,976,374	1,095,580,697	996,139,111	1,169,641,648	1,370,863,444
資産売却収入	100,000,000	300,000,000	2,200,000,000	2,341,751,197	2,888,787,653
附随事業・収益事業収入	194,713,111	199,874,422	205,712,376	211,329,501	218,072,535
受取利息・配当金収入	103,720,078	114,694,854	99,350,549	129,192,431	163,217,636
雑収入	96,771,940	250,580,846	125,852,421	110,241,565	205,925,153
借入金等収入	800,000	2,500,200,000	1,200,000	1,000,000	800,000
前受金収入	1,139,139,800	1,005,807,268	933,075,300	1,546,649,513	931,846,820
その他の収入	1,270,754,147	1,768,427,065	1,264,371,561	552,075,699	767,484,878
資金収入調整勘定	△1,129,144,102	△1,424,734,785	△1,137,634,836	△1,142,256,191	△2,385,454,457
前年度繰越支払資金	2,933,257,325	2,812,957,711	5,119,590,970	2,326,457,887	2,566,587,123
収入の部合計	8,958,269,036	11,772,447,705	12,878,298,440	10,193,401,290	9,716,959,395

支出の部	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
人件費支出	2,474,923,071	2,630,677,112	2,366,927,007	2,322,402,333	2,449,931,257
教育研究経費支出	1,070,153,917	1,181,132,753	1,504,252,212	1,342,640,758	1,802,174,082
管理経費支出	473,025,650	490,293,612	510,890,944	500,953,243	609,616,229
借入金等利息支出	0	541,095	11,559,930	10,625,000	9,375,000
借入金等返済支出	600,000	200,000	250,800,000	250,800,000	250,200,000
施設関係支出	44,539,594	1,642,981,337	3,089,980,124	357,205,481	167,876,069
設備関係支出	48,828,940	78,241,525	207,843,290	77,116,787	128,453,995
資産運用支出	1,996,311,945	579,985,787	2,585,308,000	2,769,141,826	2,050,120,614
その他の支出	128,916,672	127,086,232	102,626,328	94,826,680	134,343,737
資金支出調整勘定	△91,988,464	△78,282,718	△78,347,282	△98,897,941	△170,194,872
翌年度繰越支払資金	2,812,957,711	5,119,590,970	2,326,457,887	2,566,587,123	2,285,063,284
支出の部合計	8,958,269,036	11,772,447,705	12,878,298,440	10,193,401,290	9,716,959,395

イ)活動区分資金収支計算書の経年比較

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を、本業の教育活動に関する資金収支を示した「教育活動」、建物や機器等の整備・更新に関する資金収支を示した「施設整備等活動」、資産運用等の財務活動に関する資金収支を示した「その他の活動」に区分し、資金を把握する計算書です。教育活動では、教育活動に対する補助金で未収入金となった補助金が昨年度よりも増加したことで、調整勘定で「教育活動収入」から控除する金額が増加したこと等もあり、「教育活動資金収支差額」で3億3,060万円の支出超過となりました。施設整備等活動でも、前年度前受金や未収入金額

が増加したことで「施設整備等活動収入」から控除する金額が増加したこと等もあり、「施設整備等活動資金収支差額」は1億2,892万円の支出超過となりました。「その他の活動資金収支差額」は1億7,800万円の収入超過となりました。この3区分の資金収支差額を合わせた金額が、「支払資金の増減額」に昨年度との増減額として示されます。今年度は2億8,152万円の減額となりました。

(単位 円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	4,517,159,493	4,625,304,309	4,375,731,376	4,340,449,972	4,756,923,977
	教育活動資金支出計	4,018,102,638	4,301,971,677	4,382,070,163	4,165,996,334	4,858,754,653
	差引	499,056,855	323,332,632	△6,338,787	174,453,638	△101,830,676
	調整勘定等	133,489,840	△284,371,147	28,390,894	36,889,504	△228,778,662
	教育活動資金収支差額	632,546,695	38,961,485	22,052,107	211,343,142	△330,609,338
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	772,665,295	1,469,247,739	952,582,800	2,589,247,197	1,514,752,653
	施設整備等活動資金支出計	1,697,057,423	2,071,222,862	3,597,823,414	1,034,322,268	696,330,064
	差引	△924,392,128	△601,975,123	△2,645,240,614	1,554,924,929	818,422,589
	調整勘定等	8,753,796	△51,121,004	29,332,996	505,906,781	△947,345,654
	施設整備等活動資金収支差額	△915,638,332	△653,096,127	△2,615,907,618	2,060,831,710	△128,923,065
小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）		△283,091,637	△614,134,642	△2,593,855,511	2,272,174,852	△459,532,403
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	593,867,311	3,181,944,545	2,361,512,627	407,291,960	2,129,901,422
	その他の活動資金支出計	429,809,312	261,225,471	2,560,791,772	2,439,287,176	1,952,390,537
	差引	164,057,999	2,920,719,074	△199,279,145	△2,031,995,216	177,510,885
	調整勘定等	△1,265,976	48,827	1,573	△50,400	497,679
	その他の活動資金収支差額	162,792,023	2,920,767,901	△199,277,572	△2,032,045,616	178,008,564
支払資金の増減額 (小計+その他の活動収支差額)		△120,299,614	2,306,633,259	△2,793,133,083	240,129,236	△281,523,839
前年度繰越支払資金		2,933,257,325	2,812,957,711	5,119,590,970	2,326,457,887	2,566,587,123
翌年度繰越支払資金		2,812,957,711	5,119,590,970	2,326,457,887	2,566,587,123	2,285,063,284

ウ)財務比率の経年比較

(単位 %)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率※1	14.0	0.84	0.50	0.49	-6.95

※1 教育活動資金収支差額÷教育活動収入×100

(2)その他

①資産運用の状況

経常資金及び各特定資産の積立金の一部を有効に運用するために、有価証券を保有しています。有価証券の種類は、国債・地方債、事業債及び外国債です。満期償還を基本としており、時価評価による評価替えは行わず、取得額を貸借対照表に計上しています。運用については、学校法人二階堂学園資産運用規程に基づき、金融商品の安全性を第一に、収益性や流動性を考慮して、運用しています。

有価証券 概要

区分	金 額(円)	構成比率(%)
国債・地方債	467,935,001	6.2
事業債	3,089,960,819	40.9
外国債	4,003,688,889	52.9
合 計	7,561,584,709	100.0

②寄付金の状況

大学では、保護者の会にあたる「桐の会」より二階堂学園奨学金資金として卒業生の父母からは学生の福利厚生として、昨年に引き続き寄付がありました。また、大学のホームページに寄付金募集サイトを開設したことにより、個人から部活動支援等の寄付がありました。附属高校では、卒業生の会にあたる「若桐会」より生徒の福利厚生資金として、我孫子高校では「後援会」より部活動支援、また「保護者の会」と卒業生の会にあたる「我桐会」より、学生食堂補助費としての寄付がありました。みどり幼稚園でも保護者の会にあたる「みどり会」より園児の遊具等整備費としての寄付がありました。二階堂幼稚園でも「父母の会」より開園 50 周年記念式典時に、園児の遊具等整備費として寄付がありました。学園創立百周年記念で募った施設整備事業寄付金を活用し、附属高校では校庭人工芝の改修、我孫子高校ではスクールバスの購入、みどり幼稚園・二階堂幼稚園・保育園では園庭遊具の新規設置や改修工事を実施しました。

③補助金の状況

各設置校では経常費補助金のほか、空調機等機器の更新等が生じる場合には、様々な助成金を調査し、より有効的な補助金獲得に向け努力しております。また今年度は、大学の教員が公益財団法人の研究助成に応募し、研究事業費が採択されました。

(3)経営の状況分析、経営の状況成果と課題、今後の方針・対応方策

経常収支差額で支出超過が続いている状態である。ただ、令和 2 年度から開始された東京都都市計画道路事業関連工事について、一部工事が残ってはいるが、大規模な工事が令和 7 年度に終わり、土地の引き渡しも完了し、臨時的な支出は抑えられる見通しでる。また、大学学生数の落ち込みも支出超過の大きな要因となっているが、令和 8 年度新入生は定員を確保することができ、収支改善の兆しが見え始めた。各設置校が入学定員数を確保することが、安定した経営に結びつくため、定員未充足の設置校には、魅力ある学校づくりをして、より多くの新入学生を確保する必要がある。

4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

(1)関係する決議の概要

令和7年2月25日に開催された理事会において、以下の内部統制に関する基本方針及び諸規程を定めた。

- ①内部統制システム整備の基本方針
- ②理事選任機関運営規程
- ③評議員選任委員会運営規程
- ④理事会運営規程
- ⑤常任理事会規程
- ⑥評議員会運営規程
- ⑦評議員選任・解任規程
- ⑧理事の職務及び決裁権限規程
- ⑨内部監査委員会規程
- ⑩監事監査規程

令和7年3月25日に開催された理事会において、以下の内部統制に関する諸規程及びマニュアルを定めた。

- ①コンプライアンス推進規程
- ②法令遵守マニュアル
- ③リスク管理基本規程
- ④文書管理規程
- ⑤財務書類の閲覧等に関する規程
- ⑥電子承認システムを使用して行う業務等に関する規程
- ⑦役員及び評議員の報酬等に関する規程

(2)体制整備及び運用状況の概要

①理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

1. 理事の職務の執行に係る情報及び文書(電磁的記録を含む)については、「文書管理規程」等に基づき、適切に記録し、定められた期間安全に保存し、管理する。
2. 監事がその職務の執行のために求めた時は、これらの情報及び文書をいつでも閲覧し、写しをとることができる体制を維持する。

②損失の危険の管理に関する規程その他の体制

1. 学園の経営、教育・研究活動に重大な影響を及ぼすリスク(災害、不祥事、情報漏洩、財務リスク等)に対応するため、「リスク管理基本規程」を定め、リスクの予防及び発生時の被害を最小化することに努める。
2. 法人に著しい損害を及ぼす恐れのある事実が発生した時は、理事が直ちに監事に報告する体制を整備する。

③理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

1. 理事会は、中期計画及びこれに基づく単年度の事業計画・予算を策定し、重点目標を明確にして職務の執行にあたる。
2. 「理事の職務及び決裁権限規程」において、各理事の職務範囲及び決裁権限を明確に定め、適正かつ迅速な意思決定を行う。
3. 理事会の円滑な運営と迅速な意思決定を行うため、常任理事会を置き、事前に十分な審議・調整を行う。
4. 業務執行の進捗状況は、定期的に理事会に報告される。

④職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

1. 法人では、職員が遵守すべき行動基準として「コンプライアンス推進規程」、「法令遵守マニュアル」を定め、周知徹底を図る。

2. 法令違反等の行為を早期に発見し是正するため、通報者の秘密厳守と不利益な取扱いの禁止を徹底した、内部通報制度を整備・運用する。
3. 令和 8 年 4 月から理事長直轄の内部監査部門(内部監査室)を置き、職員の職務執行の適正性について、定期的に監査を実施する。

⑤監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制

1. 理事及び職員は、法人に重大な損害を及ぼすおそれのある事実、または重大な法令・寄附行為違反の事実を知ったときは、直ちに監事に報告する。
2. 監事へ報告を行った者に対し、当該報告を理由としていかなる不利益な取扱いも行わない。
3. 監事の職務の執行について生じる費用は、法人が適切に負担する。
4. 監事、内部監査室及び会計監査人は、定期的に情報交換を行い、連携して監査の実効性を高める。

令和 7 年度 事業報告 附属明細書

設置校・園の事業報告詳細

1. 日本女子体育大学
2. 日本女子体育大学附属二階堂高等学校
3. 我孫子二階堂高等学校
4. 日本女子体育大学附属みどり幼稚園
5. 二階堂幼稚園
6. 日本女子体育大学附属保育園

目 次

日本女子体育大学	1 ～ 3
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	4 ～ 6
我孫子二階堂高等学校	6 ～ 8
日本女子体育大学附属みどり幼稚園	8 ～ 10
二階堂幼稚園	10 ～ 14
日本女子体育大学附属保育園	14 ～ 16

各校・園の事業報告の自己評価については、達成度を以下の基準で判定したものである。

[A] 事業計画作成時に想定した目標を達成できた

[B] 概ね目標を達成できたが一部に不十分な事項を残している

[C] あまり成果を挙げるができなかった又は何らかの支障があり実施できなかった

<日本女子体育大学>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	今後の世代交代を見据えた教員人事とカリキュラム整備の推進	令和 7(2025)年度末退職者に係る補充採用人事を実施し、8名の教員を採用するとともに、一部教員の配置変更を行った。また、令和 8(2026)年度中途退職予定者および年度末定年退職者に係る補充採用の人事計画の検討を進めている。	A
	大学院改革の推進	新たな演習科目の配置により教育職に就く大学院生の奨学金返還免除申請を実現するとともに、学部生への制度周知を行った。また、修士論文関連手続きのオンライン化を進め、ペーパーレス化や効率化を図るとともに、自習室の環境改善や広報用パンフレットの刷新など、多角的な改善を実施した。	A
	学長ガバナンスに伴う組織運営の改革	内部質保証委員会を廃止し、内部質保証関連の委員会規程を改正した。これにより、関連の委員会業務が効率化され学長のリーダーシップによる大学運営を推進する体制が整えられた。今後は、教育・研究環境の改善に係る全学的な調査・検討を行っていく。	A
	学生定員(収容定員・入学定員)の見直し	今後の学生募集状況の見通しを踏まえ、定員充足率の観点から、収容定員・入学定員の見直しを検討した。新学長のもとで、次年度も継続して検討していく。	C
研究活動	教員の研究推進	科学研究費助成事業は、研究代表者 10 件(新規 4 件、継続 6 件)、研究分担者 23 件(新規 5 件、継続 18 件)が採択された。複雑な研究費管理を効率化し、教員が研究に集中できる環境を整えるため、公的研究費管理システム(Dr.Budget)を導入した。また、研究活動を奨励するため、令和 8 年度より学部の定額研究費を科研費申請の有無や保有状況に基づいて傾斜配分することとした。	A
	FD 活動の充実	学部 FD 研修は「ICT 活用報告及び AI 活用の展望」をテーマに、教員免許課程 FD 研修と合同で 9 月 10 日に実施した。また、大学院 FD 研修は「本学大学院のこれまでとこれから」をテーマに、9 月 1 日に実施した。	A
	研究上の不正防止体制	不正防止計画推進委員会による年間 4 回の啓発活動と年間 1 回の研究倫理教育研修会を行い、科学研究費の執行に関する内部監査を実施した。	A
	確実な入学定員を目指す入試制度の改革	学校推薦型選抜の指定校数を 200 校程度増やし、一般選抜では試験内容の変更や一部の選抜方法の出願期間を延長する等の改善を行った。その結果、すべての学科で入学定員を充足することができた。	A

募集及び 広報活動	活発な学生募集イベントの展開	オープンキャンパスを7回実施し、4月と7月にはナイトオープンキャンパスを開催した。他にちょこキャン、健美祭開催日のミニオープンキャンパスなど、例年通り様々なイベントを展開した。また、新たな試みとして、附属みどり幼稚園の協力を得て、松原キャンパスで子ども運動学科保育体験プログラム8月と3月に実施したところ、8月に参加した高校3年生10名全員が入学した。	A
	学生募集に繋がる大学主催事業の実施	8月19・20日にダンス・ワーク・セミナーを開催した。また、3月20日に人見絹枝杯陸上競技大会を開催した。	A
社会貢献・ 地域連携	大学主催事業の展開	近隣の三鷹市において、子どもの運動習慣定着に関する内容の事業を、健康スポーツ学科を中心に実施した。	A
	地域交流事業	春期地域交流講座(5月下旬～7月下旬実施)は、9講座と特別講座4講座を開催した。秋期(9月下旬から1月下旬実施)は、10講座と基礎体力研究所に新規に導入した低酸素トレーニングルームを活用した講座を開催し、低酸素トレーニングルームの講座は好評のため追加でも実施した。	A
グローバル化	SDG's 関連事業の推進	ホームページに「SDG's の取り組み」ページを開設し、学内で実施している諸活動を学外に向けて公開している。	A
	学内電子決済システム導入	大学内の出張届や予算執行に係る手続きに「rakumo ワークフロー」を活用し、紙ベースの押印決済を省略している。	A
教育研究 環境の整備	学内施設の適正な維持・管理及び整備	法人本部の管財課と連携して、陸上競技場のトラック部分の改修工事やE306・E307教室の設備更新、照明のLED化等を実施した。照明は現時点で68.5%がLED化している。また、学園創立百周年記念館の外部貸出に向けた管理体制の整備等を引き続き進めている。	B
その他	大学開学60周年記念事業	開学60周年にあたり、ロゴマークの制定、フラワーフォトスポットの制作、健美祭での演技発表、「ニチジョビジョン 未来×提案」と題した大学の教育力・研究力の資産を活用した挑戦的な未来ビジョンの提案募集等、大学の活性化に繋がるような記念事業を実施した。	A
	外部資金獲得方策の検討・推進	企業や個人からの寄付金獲得を進めるための方策として、新たに寄付金募集のためのホームページを立ち上げ、7月より運用を開始した。	A

〔特記事項〕



○学部 FD 研修



○オープンキャンパス



○子ども運動学科保育体験プログラム



○ダンス・ワーク・セミナー



○地域交流講座（背骨エクササイズ）



○地域交流講座（低酸素トレーニング）



○開学 60 周年記念事業フラワーフォトスポット制作



○「ニチジョビジョン 未来×提案」
プレゼンテーション

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

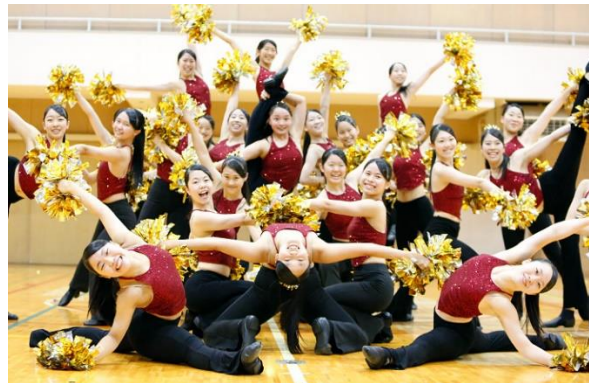
区 分	事 項	結 果	自己評価
教 育	①教育目標の具現化	自ら学び、自ら考え、判断のできる生徒の育成を目指し、授業改善をすすめてきた。生徒自らが興味・関心を持って粘り強く学習に取り組むことで探求力や課題解決力などを養えるように心がけた。コースに特化した学びの進化を図り、各自の夢や希望を実現できるように支援を行った。	A
	②進学実績の向上	日本女子体育大学への進学者数増加に向けて、大学オープンキャンパスへの参加、スポーツ・ダンスワークショップを実施した。体育祭等を大学の施設で実施することで、進学意識の醸成につなげていった。他大学等の進学についても、進路ガイダンス、3 者面談、保護者懇談会等できめ細かい情報提供を行い、各自に合った進路選択につなげた。	B
	③ICT 機器の活用	ICT機器を活用して、生徒が自主的に参加する授業スタイルを確立した。具体的には、iPad を活用して、全員が同時に答えたり、意見を出し合ったりすることで、参加型授業の実践を行った。授業アンケートを実施分析することできめ細かい支援を行った。	A
	④N-SALCの活用	自立学習を実践する場として、自ら学び身につけた学力をさらに実践する場として活用された。ネイティブ教員が昼休み・放課後に常駐して、生徒一人ひとりの習熟度に応じて、最適な学習方法を提示し、実践することができた。	B
生徒募集 及び広報活動	①入学生徒数の確保	広報活動全般を見直し、限られた資源(人・金・物)を有効活用し、活動の「選択と集中」を行った。パンフレット・ホームページ・SNS等を有効活用し、ターゲット層に合わせたメッセージの発信を行った。しかし、最低目標として設定した 120 名には届かず、85 名の入学者数であった。次年度は、特にキャリアデザインコースの特徴を明確にして、スポーツ・ダンス以外にも広く目を向けてもらえるような学校づくりを目指していく。	C
	②広報活動のDX化推進	ホームページや SNS、動画等を活用し、学校の魅力や教育内容を多角的に発信した。デジタルツールを活用して、外部会場での相談会や学校説明会の在り方を再検討し、業務の効率化につなげた。	B
	③教育活動の可視化	教育活動の具体的な成果をSNS等で定期的に発信することで、受験生や保護者の動機付けを行うことができた。	B
	④学外団体との連携	地域や外部団体、他校との連携で繋がりを広げ、生徒の学びを豊かにすることを実践していった。教育の充実と生徒の進路選択の支援を目的として、地元商店街や、他大学との交流を活性化させた。ダンスやスポーツ等の特定の分野においては、大学などの協力を得ながらイベントの実施や広報活動に取り組むことができた。	A
	⑤スクールイメージの刷新	学業及びスポーツ・舞踊奨学生を活用して有意な人材を確保し、広報活動へとつなげていった。また、附属高校の利点を生かし、日本女子体育大学への進学について積極的に紹介していった。	B

社 会 貢 献・地 域 連 携	①ボランティア活動	生徒会を中心にして、地域のボランティア活動に、積極的に参加していった。地元商店街や自治会と連携して、地域の魅力発見や、課題解決に向けて活動を行った。	A
	②公立中学校との連携	各地域が開催する中学校のダンス発表会で、ダンス部が模範演技を披露し、生徒募集へとつなげていった。	A
	③世田谷区福祉避難所の開設	自然災害の発生時に、世田谷区と連携して、母子福祉難所を開設・運営する取組みを進めた。(芸術スポーツ棟)	A
	④小・中学校対象の講習会	近隣の小中学生を対象に、ダンスや新体操の講習会を実施して認知を高めることにつなげた。	B
その他	①環境整備	グラウンド人工芝の張替え、空調機器交換及び校舎の塗装等を実施し環境整備が推進された。他にも、施設や設備の老朽化が進んでいる箇所があるため、生徒の安全を配慮し補助金制度等を活用し、補修や改修工事を計画的に実施していく予定である。	B
	②SDG's	総合的な探求の時間におけるエナジード教材を活用して世界が直面している様々な課題を解決するために自らが主体的に考え実践できる生徒を育成していった。	B
	③高大連携	日本女子体育大学からダンスコースやスポーツコースへの講師派遣、大学施設を借りて体育祭・ダンス発表会等の行事の実施、大学オープンキャンパスへの生徒参加など、さまざまな形で高大連携を具現化していった。	A
	④部活動の活性化	二階堂奨学金(特に、スポーツダンス奨学生)を有効活用して、強化部を中心に積極的に生徒募集を行った。生徒のニーズを調査し、日本女子体育大学の協力を仰ぎながら、新しくストリートダンス同好会を発足させた。	B

〔特記事項〕



○体育祭 (クラスダンス)



○部活動 (ダンス部)



○ダンスコース授業発表会



○【探究授業】宣伝会議賞の出張授業



○英語研修（福島県・ブリティッシュヒルズ）



○スキー実習（長野県・熊の湯スキー場）

<我孫子二階堂高等学校>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教 育	① 新教育課程の実施と見直し	次期学習指導要領の改訂を見据え、令和 8 年度入学生より実施する教育課程の策定を行いひとりひとりの進路に応じたカリキュラムを提供できるように個別最適化を図った。また、教員自身の能力を生徒に還元するマスター講座の充実、教職員の働き方改革の準備へとつなげる事ができた。	B
	② ICT 機器の整備と活用	黒板の老朽化や教室数の不足を見据え、全ての HR クラスに電子黒板を導入するに向けた取り組みを行った。	
	③ 進路指導の充実	入学から進路決定まで、系統立った定期的な進路ガイダンスの実施により、進路意識の育成を図った。 土曜講座や校内塾の充実や改善により、ひとりひとりに適した進路指導を実現した。	
	④ 社会情勢の変化に対応した生徒支援	生徒会を中心に、学校で地域の事情に根ざした活動を行い、学校と地域社会との連携を意識した取り組みをすることができた。 一人一台端末の授業での活用を進めることができたが、リテラシーの育成も必要である。	

募集及び広報活動	① 受験生・入学生 の獲得戦略 ② 広報活動の充実	夏の「体験入学」および秋の「入試説明会」の参加者を増加させ、受験者数の増加へとつなげることができた。近隣の私立高校が入試基準を上げ、定員の厳格化をしている中ではあるが、このチャンスを確実にものにできた点は評価できるのではないかと。入学定員の確保については昨年度に引き続き、今年度も定員 200 名を超過する 238 名の入学者を確保することができた。これは私立高校の授業料無償化を追い風にマスター講座をはじめとする学び直しや校内塾など本校の取り組みをアピールし、単願者が増加したことが要因の一つである。次年度も私立高校を志望する受験生がさらに増加する中で、選ばれる私立高校となれるよう取り組んでいく。	A
社会貢献・地域連携	地域交流事業・ボランティア活動	7月に我孫子市から環境功労の感謝状を授与されるなどここ数年の事業活動の成果が目に見える形になった。2月には市内の災害復興のために、生徒が中心になり市民への募金活動も行ない市長からの感謝状を受けている。地域へ様々な貢献は本校への信頼へと着実に繋がっている。	B
施設	教育環境整備	漏水修理など老朽化した施設設備も順次改修が実施されている。エアコンの更新も年度計画で進めており、生徒の直接的な教育環境の整備は優先的に実施している。また、送迎バスも1台増え、生徒の利便性も向上した。今後は、さらに生徒の安全・安心な環境を確保するために防犯カメラの増設等を図る必要性を感じており、今後も学園本部の支援及び同窓会、保護者の会、後援会からの多くの金銭的支援も引き続き調整していきたい。	A
その他	学校運営と組織	Microsoft Office 365 の Teams や Line School 連絡帳を利用し教職員の業務改善を試みた、次年度よりさらに活用の範囲を広げる予定である。新たな委員会も機能し成果をあげ、生徒の満足度をあげることに大いに貢献した。今後はさらに「魅力ある学校づくり」のため教職員が働きやすく自らの責務を十分に果たせるような職場環境づくりを目指す。	B

〔特記事項〕



○令和7年度入学式 250 名の新入生



○参加者が過去最高の体験入学



○新たな取り組み TDL での研修



○今年度導入のスクールバス



○我孫子市の災害復興のための募金活動



○生徒が主体的に行う球技祭

<日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育 (保育)	カリキュラム	① 園児が伸び伸びと園生活を楽しみ、自ら主体的に行動できる環境作りをし、保育の質を高め一人ひとりの発達を促すことができた。 ② 古くからの伝統行事を大切に、季節を感じながら興味・関心を持てるよう保育に取り入れた。 ③ 園外保育を通し、園児が様々な経験や体験をし、興味関心を持ち活動意欲や体力向上にもつながられるよう活動した。 ④ 自ら進んで体を動かし積極的に運動に取り組み、目標に向かって挑戦する意欲や達成感が味わえるよう環境設定を行い、充実させることができた。 ⑤ 天野式リミックスの指導を取り入れ伝統を伝えていくこと、また集中力や表現力を養うことができた。	A
	食育	園児に食の大切さを伝え、保育の中で「育てる・作る・食べる」の体験を楽しめるようにした。また、花や野菜の栽培を通して収穫までの過程を楽しみ感情豊かな心身の育ちにつながるような保育をした。	A

	預かり保育	預かり保育の需要増加に伴い、日々教員の配置を考えながら、保育を行った。また保護者が安心して預けられるよう安全に十分配慮し、保育環境を整え充実した保育を行った。長期休みにおいて給食の提供を行い、衛生環境的にも安全に保育を行うことが出来た。	B
	大学連携	附属幼稚園として、幼稚園教諭を目指す学生が子どもへの理解を深め、幼児教育の知識を学べるよう援助を行った。また、大学の授業参加等で学生との関わりや教員による専門指導を受けることができた。今年度は、大学キャンパスにおいての学生との交流活動を行うことができなかった。	B
	安全対策	園内の環境整備・点検を行い危険な箇所は修理し、ドアの施錠や防犯カメラを活用して、安全管理の徹底を行っている。施錠ドアの修理も行い、安全面でも安心できるようになった。地域の警察署と連携し、園児が交通ルールなどを学ぶことが出来た。また、前年度に実施した警察官による指導講習会の内容を改めて教職員に実施し、知識の定着を図った。	A
研究活動	園内外への研修	積極的に園外研修会に参加し、保育技術の向上につなげた。また、園内研修において職員間で共題に取り組み、より質の高い保育を実践した。	A
募集及び広報活動	広報活動	① 園外での広報活動(合同説明会)に参加する予定であったが、開催場所が遠方のため、今年度は不参加とした。 ② 見学会や説明会の内容や回数を考え充実させた。また、園の特色となる給食の試食会を引き続き開催し、園児獲得につながった。 ③ ホームページや SNS を活用し、園外に保育や情報等を積極的に配信した。インスタグラムでは動画も好評であった。 ④ プレ保育(みどりクラブ)を充実させ、園児獲得につながった。	A
社会貢献・地域連携	未就園児親子への支援	① 園庭開放や未就園児教室を開催し、近隣の子育て世代の方が気軽に参加でき情報交換の場となっていた。また、遊具やおもちゃを充実させ楽しく過ごせるようにした。 ② 子育て講習会や子育て相談会を実施し、子育ての悩みや子育てのアドバイス等が行える企画を実施した。 ③ 近隣の小学校と連携を図り、学校見学の機会を作り就学への期待が持てるようになった。また、卒園児が中高校生となり来園し、ボランティアとして受け入れることができた。	A
子育て支援	在園児保護者への支援	① 教育課程後に保護者支援としての預かり保育を行い、教員を配置して、充実かつ安全に保育を行った。 ② 保護者との連絡や事務処理方法として、ICT ツールを活用し利便性が図れた。 ③ 園内での課外教室の充実を図り、保護者が安心して通わせられるよう担当教諭と連携し、指導を行った。 ④ 幼稚園が保護者のカルチャー講座・サークル活動の場として、保護者のリフレッシュとなるよう活動を支援した。	A

その他	創立 80 周年に向けて	令和 8 年 10 月に創立 80 周年を迎えるにあたり、周年記念事業をどのように行うか検討し、大学での記念運動会実施に向け、少しずつではあるが計画を進めることができた。	B
-----	--------------	---	---

〔特記事項〕



○屋上でのピクニックランチ



○プレ保育 みどりクラブ



○クリームソーダー製作：実際に食してからの製作



○十五夜



○節分 豆まき



○ひな祭りコンサート

＜二階堂幼稚園＞

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育 (保育)	運 動	・年中組の専門の指導員による水泳指導の回数を昨年度より増やしたことで、広いプールでのびのびと水に慣れ親しみながら、水中ならではの全身運動を経験し、日常の保育では得ることのできない水の感触や心地良さを味わうことが出来た。 ・ボール遊びやフラフープ、縄跳び、平均台など体幹力を高める運動遊びを多く取り入れ、子ども達に運動することの楽しさを伝えながら、体の軸や運動能力の土台を築いていった。	A

教育 (保育)		これらを繰り返し挑戦したり、友達の刺激を受け、自主的に取り組んだりすることで体幹を鍛え、バランス感覚を養っていった。 ・専門の指導員が行う体育指導で、鉄棒・マット・跳び箱・縄跳び・ボール等の基礎を学び、遊びの中で楽しみながら取り組むことで、体力の向上や運動への意欲に繋がった。3年間の結果を披露した体育指導発表では、保護者から高評価を得た。	
	自 然	・自然に囲まれている幼稚園周辺や地域の環境を活かし、積極的に取り入れふれ合うことで、遊具や道具に頼らず子ども達が自発的に考え想像し遊びを展開する力を育んでいった。 どの学年も四季を通じて園外保育や散歩を積極的に実施し、身近な自然に関心を持つことができた。また、屋外で活動することで楽しみながら自然に運動量を増やすことができ、体力の向上にも繋がり、それらの保育の様子をInstagramに投稿することで、保護者に伝えることが出来た。	A
	徳 育	・異年齢や地域の方々と交流する時間を多く取り入れ、一緒に遊んだり活動したりすることを通して、お互いの良さに気づき、共感したり自ら喜んで関わろうとしたりする姿が見られた。特に未就園児との関わりでは、自分より小さい子に対して思いやりあふれ、相手に寄り添う行動が見られ、子ども達の成長を感じると共に地域の方々から高評価を得ている。 ・各集会や日常の様々な機会に、園児一人一人に向けて保育者が善意ある姿を言葉で直接伝えることで、互いに認め合い、譲り合い、寄り添い合う豊かな社会性や心情が育まれた。	A
	食 育	・日々の給食を通して各学年に応じた食に関する知識を習得していった。この経験を活かし最終学年の年長児では、園児達を中心になってクラス毎にバランスを考えたメニューを考案することで給食が出来上がるまでの流れを知り、考案したメニューを実食することで作って下さる方への感謝の気持ちを持つことができ、給食のメニューで嫌いな物が減り、残さず食べることが出来るようになった。 ・各学年に適した野菜栽培の経験により、種や苗からの野菜の生長過程を具体的に知り、自ら育てたものを収穫する喜びを味わったことで、食への興味関心が広がった。	A
	天野式リトミック	・年少児から積み重ねている天野式リトミックを、他クラスと共に活動する機会を設ける事で、クラス毎の違いを知り、更に学ぼうとする意欲や向上心を持って取り組むことが出来た。その成果を保護者の前で披露したことで、園児一人ひとりの自信に繋がった。	B

		・園内研修を行い、スキルアップ向上に努め、園児の指導に活かしているが、全職員が共通理解できる環境を整えていないので、引き続き行っていく。	
	大学連携	・日本女子体育大学子ども運動学科と連携し、満3歳児から年長児まで全園児の運動能力測定を実施し、記録をすることで個々の運動能力を把握し、一人一人に合った基本的な運動能力を高めていった。また保護者にも伝え、子どもの成長を知らせることが出来た。今年度は、基礎体力研究所との連携はできなかったの、来年度依頼をする。	B
	安全対策	・地震・火災・水害・防犯とそれぞれの状況に適した身の守り方を紙芝居や絵本等を用いて子ども達に伝え、防災・防犯意識や知識を高めることが出来た。また毎月の訓練が活かされ、子ども自ら考え行動する力に繋がった。 ・園庭に設置している大型総合遊具等が老朽化により劣化が見られた為、改修工事を行ったことで、今後も安全に使用することが継続できた。園児も再度遊具の使い方を学び、大切に使う気持ちを育みながら、遊ぶことが出来た。	A
研究活動	園内外研修	・園児の長期休業期間を活かし園内・園外研修に積極的に参加した。研修によって様々な保育分野で学び得た知識を得て、スキルアップを図ることが出来た。来年度、研修発表の場を設け、情報を保育者同士共有することに努める。	B
募集及び広報活動	満3歳児クラスの立ち上げ 未就園児教室の充実	・新たな職員の獲得が出来ず満3歳児クラスの立ち上げは難しかったため、早期入園者のニーズには、現年少組に入れることで応え、園児獲得に繋げた。今後も引き続き満3歳児クラスの立ち上げに向けて準備を進めていく。 ・未就園児に向けたイベントに参加しやすいように、未就園児教室や幼稚園見学会の際は、我孫子駅まで幼稚園バスを運行したことは好評だった。このような園バス乗車体験や充実した保育プログラム体験、在園児との交流の場を作ることで、二階堂幼稚園の良さをアピール出来た。 ・未就園児教室では満2歳児を受け入れ、より早く園を知ってもらうことで早期の園児獲得へ繋がるよう今後も努めていく ・保育の様子や幼稚園給食などをSNSに積極的に投稿し、また毎月HPに写真と共に行事や活動の様子を投稿することで広く多くの方に二階堂幼稚園を周知してもらえるよう努めた。 ・就労している方が預かり保育を利用しやすいよう、支払い方法等改善することが出来た。	B
社会貢献・地域連携	小学校訪問	・年長組が地域の小学校を積極的に訪問し、行事に参加したり就学児との交流を持ったりすることで、小学校進学への期待や意欲を高めることが出来た。	A

	実習生の受け入れ	・ショッピングセンターやお祭りでの作品展示や神社の行事参加といった交流を通して地域に興味関心を持ち、地域連携に繋がった。 ・実習生を積極的に受け入れ、望ましい保育観及び職業に関する専門知識や技能を身に付けられるように適切な指導や助言を行い、教育職に対する希望を高めることが出来、丁寧に指導したことから実習生から感謝の手紙を頂いた。	
その他	創立50周年記念行事	・創立50周年を迎えるにあたり、職員で協力し合い、記念式典及び記念祝賀会を開催し、周年行事を実施することが出来た。	A

〔特記事項〕





<日本女子体育大学附属保育園>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育 (保育)	保育目標	・年間計画・毎月の指導計画に添って保育を行った。 ・日本女子体育大学の専門的知見を活かし、園児の運動能力や体力向上に取り組み、片足棒立ちなどの具体的な課題を日常の保育に取り入れることができた ・園児が自ら興味をもち、挑戦する中での思考力や意欲が育つよう日常の保育や活動に反映させた。 ・食育では年間を通し野菜栽培や調理活動、栄養士による指導を行い食材への関心や作って食べる喜びを感じ、包丁を使つてのカレー作りやパン作りなども行った。 ・昨年度に続き「とうきょうすくわくプログラム」に参加し、テーマを『自然』にし「野菜を育てる」「育てた野菜の断面観察」「草花で色水遊び」「落ち葉アート」など身	A

		近な自然に興味をもって探求活動を行い、記録はホームページに掲載している。職員で園内研修を行った。	
募集及び 広報活動	広報活動	・園見学の際、園長または主任が園内を案内し保育園で過ごす園児の様子を見てもらいながら附属保育園の魅力を伝えて、質問に応じた。 ・令和7年度4月は初めて0歳児定員9名からのスタートとなった。	A
広報活動	・ホームページ ・掲示板	・ホームページに保育内容や園だより、「とうきょうすくわくプログラム」の記録を掲載し、Instagramにて保育を公開した。 ・路面掲示板を活用して園だよりの掲示を行った。	A
社会貢献 地域連携	① 園庭開放 ② 地域交流 ③ 保育実習生の受け入れ	① 園庭開放を実施し、令和7年度は申込者数が少なかったが、目標人数は達成した。 ② 近隣の希望丘中学校の職場体験・小学生の保育体験の受け入れ、大東学園高等学校・図書館などの施設に行き、交流を図ることができた。 また、近隣の保育園(4園)と2回程公園で待ち合わせをし、就学前に子ども同士のかかわりを深めることを目的に交流活動を実施した。 ③ 附属保育園として、子ども運動学科と連携をして実習生を受け入れ、保育士育成に貢献できた。	A
その他	① とうきょうすくわくプログラム ② 延長保育	① 『自然』をテーマに環境設定し、子ども同士や保育士との関わりの中で自ら興味を持ち、好奇心や探求心を高めていった。とうきょうすくわくプログラムについて園内研修を行い、保育の質の向上へと反映させることができた。 ② 20時15分まで延長保育だが、20時16分以降の利用の場合、別途料金を設定することで、時間内での勤務終了に努められるようにした結果、年に6回程あった。	A

〔特記事項〕



運動能力測定(於：大学総合体育館アリーナ)



運動会(於：百周年記念館 FLOOR 2B)



発表会(於：二階堂トクヨ記念講堂)



発表会(於：二階堂トクヨ記念講堂)



食育 パンづくり



食育 カレーづくり



野菜栽培



とうきょうすくわくプログラム落ち葉アート



とうきょうすくわくプログラム
野菜の断面観察



千歳温水プール
Kids スポーツパークにて